

第566回 長野放送番組審議会

1. 開催年月日 令和8年2月4日（水）午前11：00より

2. 開催場所 長野放送本社会議室

3. 委員の出席 ○委員総数 8名

○出席委員数 6名

○出席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

林 新一郎 委員長

井上 裕子 副委員長

新芝 正秀 委員

笹本 正治 委員

中谷 富美子 委員

中山 潔 委員

樋代 章平 委員

南澤 光弥 委員

○欠席委員の氏名（敬称略・委員は五十音順）

○放送事業者側出席者名

須垣 有司 （代表取締役社長）

早川 英治 （取締役 報道制作・デジタル推進担当）

小林 修 （取締役 編成業務・放送番組審議会担当）

浅輪 清 （編成業務局長

兼 考査部長 兼 放送番組審議会事務局長）

北澤 輝久 （編成業務局編成部長 兼 視聴者室長）

伊藤 晴彦 （報道制作局長）

宮本 利之 （報道制作局次長）

東澤 鈴美 （長野放送管財ディレクター）

議題

（1）番組審議

『 NBSフォーカス∞信州 愛はポレポレ 小林フィデアの生きる道 』

（令和8年1月16日（金）午後7時00分～7時57分 放送）

(2) 視聴者対応報告（令和8年1月分）

(3) その他

4. 議事概要

(1) 番組審議

- ・非常に展開も軽快でストーリー性もあって、見ていて段々引き込まれていくような印象を受ける番組だった。
- ・冒頭や最後に出てくる飯綱町の風景がとても美しく、映像美というのを得意としている長野放送だと思った。
- ・番組が始まっていきなりフィデアさんの底抜けに明るい様子とか振る舞いが映像に飛び込んできたのが、大きなインパクトだった。
- ・フィデアさんの生き方を巧みに豊かに表現した非常に素晴らしい番組だった。
- ・レストランでのお客様との絡み、りんご畑での陽気さ、お嫁に来た当初のお姑さんの風景、静子さんを介護する姿は、愛されキャラであるフィデアさんの印象を非常に印象付けていた。
- ・人種差別という残酷な仕打ちの経験と苦労に話題が転換して、その大きなギャップで小林さん夫婦のここまでの苦労と日本に溶け込んだお二人のすごさが強調されているように感じた。
- ・娘のサラさんが東京の高校に行く時のご主人の一成さんと、フィデアさんとの性格の対比が面白かった。
- ・人間の素晴らしさを自覚させていただいて、私たちも頑張らなければいけないという力を与えてくれた。
- ・人の魅力がいっぱい溢れ、周囲の人々の素晴らしさ、共生することの意味、協働することの意味を訴えかけてくれた。
- ・フィデアさんの母親の生き方がそのまま教育になって、家庭とは何か、教育とは

何か、親の生き方と教育の問題も考えさせられた。そのまま両親の生き方が子どもサラさんの教育になっているというところにもつながっていた。

- ・海外から来た人の存在が、地域の三水小学校の教育そのものに影響を与え、見方を変えてきてくれているということが、素晴らしいと思った。
- ・支援を始めてから30年目、自立の道を見つけなければいけない。単純に支援をすればいいのではなくて、未来をどう作っていくかというところまで考えていることが非常に良い。
- ・30年間の長い時間を追っていくのはなかなかできないので、本当にその一つだけでも、ものすごく素晴らしいと思った。
- ・フィデアさんの祖国タンザニアだけではなく、周りの方たちの非常に深い愛というのを感じて感動した。
- ・フィデアさんが非常に明るい性格で、地元の皆さんにも愛されている一方で、日本人からの差別ということにも触れていることで、決してプラスだけではなく、マイナスの面に触れているところがいいのではないかな。
- ・女性の一人が「日本人も見習わなくちゃ」という言葉を抜き出して字幕スーパーに挙げたのは、現実として今も少なからずそういう意識が残っているのを強調された印象を受け、視聴者に訴えかけていると感じた。
- ・主人公のフィデアさんが日本の異文化の中で立ち上がって、葛藤を経ながら支援の仕組みを構築して、世代を超えて継承されていくという過程を丁寧に描いた意義深いヒューマンドキュメントだった。
- ・フィデアさんの「ポレポレ、ゆっくりと着実にという意味」という生き方と活動理念が支援現場における即効性ということだけではなくて、持続性こそが真価を生むということが強く印象付けられた。
- ・フィデアさん、久世さん夫妻の信仰が理解者を増やしていった一つの鍵なのではないかと思った。

- ・自身の痛みが他者への眼差しに変わる過程は、支援活動の精神的な核であり、視聴者に深い共感と考察を促していた。
- ・支援の枠組みが与えられるということだけではなく、寄り添いながら共に成長する関係というように発展していることが本番組の大きなテーマとして捉えていたと感じた。
- ・子どもたち自身が成人後に医療や技術を学んで、次の世代の子どもたちを支える立場に回り始めているという受けた愛を次につなげる連鎖が、番組を通してとても生き生きと描かれていて、良かった。
- ・主人公のフィデアさんの前向きな姿勢や言動の奥に宿る強い意思が、作品全体を支えていて、視聴後に寄り添う支援の持つ可能性を非常に深く考えさせられた番組だった。
- ・タンザニアで、卒業した方々がさらなる福祉の地域づくり、福祉の村づくりを目指しているという若者が出始めていることで、ほっとした番組だった。
- ・お母さんに赤いネイルを塗ってあげるところは、すごい心に刺さったので、もうちょっとクローズアップしても良かった。
- ・そもそも小林一成さんがどうして三水のりんご農家だったのに青年海外協力隊に行っただのかというところと、二人の馴れ初めをもうちょっと聞きたかった。
- ・小林一成さんという人となりももうちょっと知りたかった。
- ・「妻の夢を叶えることが自分の夢」という小林一成さんの気持ちをもうちょっと聞きたいと思った。
- ・娘のサラさんは、タンザニア支援をしている母親をどう思っているのかも聞いてみたかった。
- ・北信五岳と花の風景が素晴らしく、できればフィデアさんの故郷であるタンザニアの風景とダブるような映像演出ができるといいと思う。
- ・前半は場面転換がちょっと多過ぎて、時系列的にもちょっと逆になり、ただ見て

いるとちょっと分からなかった気がして、追っていくのが大変だった。

- ・アフリカのタンザニアの現実というのを、学校プラスちょっと客観的な解説があれば、より理解が深まった。
- ・「雪は嫌い」と言っていたので、雪の中のフィデアさんの様子があったら、ちょっと面白かったかなと思った。
- ・フィデアさんほどではなくても同じように社会貢献にもすごく前向きな方がいれば、もし番組の中で同時に紹介できると、我々がこれからどういうふうに社会貢献活動に向けていけばいいのかというヒントになったのではないかと感じた。

(2) 視聴者対応報告（令和8年1月分）

資料に基づき、令和8年1月分の視聴者対応について、編成部より報告を行った。

(3) その他

配布資料

- ・第565回番組審議会（令和8年1月）議事録
- ・視聴者対応報告資料（令和8年1月分）
- ・モニターレポート

『 NBSフォーカス∞信州 愛はポレポレ 小林フィデアの生きる道 』

（令和8年1月16日（金）午後7時00分～7時57分 放送）

- ・BPO報告（NO. 285）
- ・次回審議番組DVD、及び資料

以 上